

EFL 環境における疑似イマージョン集中英語キャンプの効果

The Effectiveness of an English Emersion Camp in an EFL Circumstance

佐々木 緑 *

Midori SASAKI

抄 録

本稿は EFL 環境の中で英語を学ぶ学習者に、短期間の疑似イマージョンプログラムを体験させることで、学習者の英語使用に対する意識がどのような変化が見られたかについて、2007 年 9 月関西国際大学教育学部英語教育学科 1 年生を対象に実施した 5 日間の集中英語キャンプにおける成果をまとめたものである。このキャンプ期間中は英語のみを使用言語とした。また授業は、学習者主導型のスタイルをとり、グループ(ペア)での調べ学習、発表、意見交換等を中心に行った。キャンプ実施後のインタビュー調査およびアンケート結果を分析し、学習者主導型のプログラムが学習意欲および学習態度にどのような影響をもたらしたかについて報告している。

1. はじめに

日本で英語を学んでいる学習者にとっては、教室以外の日常生活の場で英語を話す機会は非常に限られており、英語を使用するのは教室の中だけという学習者も少なくない。このような EFL の環境で十分な英語運用能力を身につけるためには、授業外での学習、および英語を使用する時間を確保する必要がある。このことは、EFL 環境での英語教育においては大きな課題の 1 つである。

外国語教育において目標言語の使用を促進し、効果的に外国語を学習させる為の教授法の 1 つに、イマージョン教育がある。イマージョン教育とは、あらゆる科目を目標言語のみを用いて教育を行うというものである。1965 年にカナダケベック州で英語を第一言語とする子供達にフランス語を教える手段として採用されたのが始まりである。この学校では、算数や理科など全ての教科をフランス語で教えることによって、高い成果を収めた。この教育法は、その後アメリカ合衆国の公立学校にも急速に普及し、さらにアジアやヨーロッパ諸国などでも第 2 言語をイマージョンプログラムで教育する学校が増えてきた。このイマージョン教育には反対意見もあったが、現在では、外国語教育におけるイマージョンの効果は一般的に認められるものと

* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

なっている。特に、日常的に目標言語が使用されない EFL の環境での英語教育においては、実質的に英語を用いる時間を増やすイマージョン教育は大変有効であるといえる。イマージョン教育には全ての授業を目標言語で実施する場合の完全イマージョンと、一部の授業を第1言語で実施しながら部分的にイマージョン教育を実施する場合がある。本研究の実施校である、関西国際大学教育学部英語教育学科では、一部の学部共通科目を除き全ての科目を英語で教育することで、部分的なイマージョンの環境を作り出し、の英語使用の促進を目指している。

しかしながら、全ての科目を英語だけで教えるだけでは、必ずしも学習者の英語使用が増えるとは限らない。学習者の自発的な英語学習および英語使用を促進するためには、授業スタイルや学習者への動機付けなどを考えることが必要となる。英語教育が実用的な英語運用能力を目指す方向へと移行していく中で、注目されるようになった教授法が、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングである。この教授法では、従来の教員主導型の授業スタイルから学習者主導型への転換が唱えられ、学習者をどのように動機付けし成功に導くかが重要視されている。関西国際大学教育学部英語教育学科でも、この教授法のもとに学習者主導型の授業を実施している。

本研究の目的は、関西国際大学教育学部英語教育学科で実践してきた取り組みを分析しその効果について報告することによって、EFL の環境で学ぶ日本人学習者が積極的に英語を使用するようになるためには、どのような取り組みが効果的であるかについての提案をすることである。

2. 研究実施校の教授法および授業方針

関西国際大学教育学部英語教育学科では、前述の通り部分的なイマージョンプログラムを実施し、学習者主導型の授業スタイルを導入している。本研究では、1年次9月に実施した英語の疑似イマージョンキャンプの成果を報告することが目的であるが、本論に入る前に、研究実施校が行っている取り組み、および教育方針について簡単にまとめることとする。

まずは、授業外での学習時間を確保するための取り組みである。授業外での英語学習時間を増やすために、各授業での宿題を義務化しており、宿題を忘れた場合は授業に参加できないというルールを設定し、全ての英語科目で共有している。授業は宿題をこななければ参加できない内容となっている。この制度は授業外学習の重要性を理解させ、かつ学習習慣形成を目指すためのものであり、一定の効果を上げている。また、教員側からのサポートとして、オフィスアワーの制度を設けており、特に高校から大学の過渡期で自習の習慣が身につけていない学生や基礎学力不足の学生への宿題サポートも実施している。宿題をしていない場合は、必ずこの教員のサポートを受けてから次の授業に出るシステムを取っている。

次に、同学科の教育は‘English Only Policy’（英語のみを使用する方針）を採用している。授業内だけでなく日常的に、語学教員との会話およびメール等での連絡は基本的にすべて英語で行うとルールを設け、学生の英語使用の促進を図っている。しかしながら、このようなルー

ルを設けるだけでは、EFL 環境で日本人学生同士が常に英語を使うことを奨励するには不十分で、学習者の内的動機付けが不可欠である。特に、大学入学まで日本語の教育を受けてきた学習者にとっては、日本人同士の会話に英語を使用することを徹底することが難しいようで、教員との間では英語を使用する学習者でも、学習者同士の会話の際に日本語を使用してしまうケースが時々見られる。初年次のゼミナール、メンター制度、体験学習の機会を利用し、英語学習の意義、効果的な学習法等について考えさせる教育を行い、学習者の内面からの学習意欲を引き出す取り組みを実施している。

本研究の疑似イマージョンの英語キャンプも、この内的動機付けの一環であった。

3. 英語疑似イマージョンキャンプ内容

3. 1 参加者

関西国際大学英語教育学部英語教育学科1年次生34名（全36名中）、同校英語教員7名が2007年9月に実施された4泊5日の英語キャンプに参加した。

3. 2 使用言語

キャンプ期間中は英語のみの使用を義務づけたが、平常の授業と同様、学生同士の間で授業時間外の会話には日本語が使用されることが多かった。しかしながら、プログラム進行中には日本語を使用する学生は少なく、日を迫る毎に英語のみを使用する学生が増えてきた。

3. 2 プログラムの目的

プログラムは以下の5点を主な目的として実施された。このプログラムでは、英語使用の増加、学生の意識改革、学習意欲向上に加えて、1年次終了時点に実施されたタイでの英語研修への事前準備の一環でもあった。

- ① 疑似イマージョンのプログラムの中で英語を練習する。
- ② 世界事情に関するトピックについての調査、プレゼンテーション、およびディスカッションを通して、世界事情に対する意識を高める。
- ③ 異文間コミュニケーションについて考える。
- ④ 人間関係作り（学生間、教員と学生間）。
- ⑤ 英語学習への意欲の向上。

3. 3 プログラム内容

実施プログラムは資料1に示す通りであった。全てのプログラムは学生主導型で実施され、ペアまたは6名程度のグループワークが中心であった。

	Morning (午前)	Afternoon (午後)	Evening (夜)	Night Assignment (夜間学習課題)
DAY 1 Sep. 11th	Orientation and preparation for the camp オリエンテーションと準備学習(グループ)		Entertaining activities 15 minutes for each group 各グループの指導による英語活動	Read 1 article on the group topic and prepare for the oral presentation in the next morning (5 minutes presentation using Power Point) Diary 翌日のオーラルプレゼンテーションの準備日記
DAY 2 Sep. 12th	International Issues 世界事情 -Oral presentation (5minutes using power point) -Discussion オーラルプレゼンテーションとグループディスカッション	International Issues 世界事情 -Preparation for the presentation in the evening session. 夜の発表の準備 Volunteer work in Thailand タイでのボランティアについて学習	International Issues 世界事情 - Oral presentation of the group topic & discussion (10 minutes) オーラルプレゼンテーションとグループディスカッション	Write a report of what they learn on the international topics (At least 300 words using computer) Diary 世界事情についてのプレゼンから学んだ内容についてのレポート日記
DAY 3 Sep. 13th	International Issues -Roll up discussion まとめのディスカッション	Cross-cultural communication 異文化学習 -Reading リーディング -Mini-lecture ミニ講義 -Drama preparation ドラマのトピック設定とシナリオ作成		Scenario writing (10 minute drama) Diary ドラマのシナリオ作成日記
DAY 4 Sep. 14th		Cross-cultural communication 異文化学習 -Finalizing the scenario シナリオ完成 -Practice for the play 練習	Drama presentation (10 minutes for each group) 各グループ10分のドラマ実演	Write a draft for the speech (3 minutes) in the morning next day (What have you learned during the camp?) Diary ふりかえりスピーチの原稿作成日記
DAY 5 Sep. 15th	Individual Speech (3 minutes per student) 振り返りスピーチ	Reflection -Writing 振り返りレポート		

4. 効果の分析

4. 1 プログラム目的の達成

最終日のインタビュー(資料2)、および自由記述の感想(資料3)、および1ヶ月に実施したアンケート調査結果(資料4)から、3. 2に挙げたプログラムの目的が達成されたかについて考察する。

① 疑似イマージョンのプログラムの中で英語を練習する。

資料2のインタビュー結果では、全員が「キャンプは効果的であった」と回答し、「英語力が伸びた」と回答した者が26名、「少し英語力が伸びた」と回答した者が8名であった。同様結果が、資料4の1ヶ月後のアンケート調査でもみられ、「キャンプは英語上達に役立ったか」という問いに14名が「大変役立った」、16名が「少し役立った」と回答している。

「普段の授業よりも英語だけで話そうと努力したか」という問いにも「大いに努力した」6名、「少し努力した」21名と、普段よりも一層‘English Only Policy’を意識的に守ろうとした学生が多かったことが分かる。ESL環境のような完全なイマージョンではなく、擬似的なイマージョンプログラムではあったが、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通して、英語を話す機会が多く与えられたことで、話すことへの自信が生まれ、英語を使うことの重要性に気づいた学生が多かったようである。しかしながら、教員の観察では授業内および教員と学生のやりとりはほぼ英語で行われたが、授業外で学生同士が英語で話すことは少なかった。英語のみを使用するというルールは春学期の授業中に比べると守られたが、授業外での学生同士の会話までには影響力がなかった。学生の

意識を高めこの目標を達成させていくためには、継続的な指導および十分な動機付けが必要であることが分かった。

② 世界事情に関するトピックについての調査、プレゼンテーション、およびディスカッションを通して、世界事情に対する意識を高める。

資料2のインタビュー結果でも、世界事情について関心が持てたと答えた学生が数名おり、また資料4のアンケート調査でも「世界事情に関する知識が深まった」に対して、「大いにそう思う」12名、「少しそう思う」18名と肯定的な回答であった。英語を使ってとして様々なトピックについて調査し話し合うことで、英語そのものの学習だけではなく、英語をツールとして何かの内容について学ぶことの意義を理解した学生が多かったようである。この後の学期で学ぶ世界事情への関心を高めることもできた。

③ 異文化間コミュニケーションについて考える。

世界事情と同様に、インタビュー結果でも、異文化について関心が持てたと話した学生が数名おり、また1ヶ月後のアンケート調査でも「異文化に関して考えるようになった」に対して、「大いにそう思う」12名、「少しそう思う」14名とほぼ肯定的な回答が得られた。異文化理解として実施した、リーディングやミニ講義は学生の異文化への気づきにつながり、また、異文化間コミュニケーションをテーマとしたドラマのシナリオ作りを通して、これまでより深く異文化について考えることができたようである。一方的に与えられる学習よりも、異文化というテーマについて自ら考え、グループのメンバーと相談しながらドラマ作りをするというのは、学生の内的な興味を喚起し、積極的な学習姿勢につながるようである。資料4の「一番良かった内容」の項目で約3分の2の学生が、「ドラマ作成」、「ドラマ実演」、「グループワーク」を挙げており、「異文化について考える」を選んだ学生も半数いた。

④ 人間関係作り（学生間、教員と学生間）

恥ずかしがらず、間違いを怖がらず英語を使える環境を作り出すためには、クラスメートや教員との信頼関係が大切である。このキャンプでは人間関係作りを1つの目的であった。資料4からも分かるように、学生同士の交流は大変盛んであった。資料2のインタビューや資料3の自由記述にも「クラスメートの良い一面を知ることができた」、「クラスメートとの協力ができた」等のコメントが見られた。このような関係作りができたことが、普段より積極的に英語だけで話そうとする態度につながったのではと分析する。しかしながら、教員との関係作りに関しては不十分であったとの不満の声があった。教員との信頼関係は授業の成果を上げるためには不可欠なもの、今後の課題となった。

⑤ 英語学習への意欲の向上

資料3の自由記述に複数見られるように、多くの学生が自分の弱点（文法等）を発見または再認識し、今後の学習に対する意欲を述べている。グループワークやプレゼンテーション等を通して、自ら気づいた弱点を克服しようという姿勢は内面からの動機付けにつながり、教員から注意され直さなければと思う受動的な気付きとは異なる。学生主導型の授業スタイルはこのような、気付きと内面からの学習意欲につながる事が分かる。このような学習意欲が、その後も継続するように、教員の授業での継続的な働きかけが必要である。

5. まとめ

本稿では、関西国際大学教育学部英語教育学科で実施した英語疑似イマージョンキャンプが学生の学習意欲、学習姿勢に肯定的変化をもたらしたことを報告した。EFL環境の中で英語教育を成功させるためには、学習者の内的動機付けにつながる取り組みが不可欠である。どのような内容が有効であるかについての、教員間での情報の共有は、日本の英語教育の発展にとって大変重要であると考えられる。

資料2：キャンプ最終日の個別インタビューでの回答

1) Was the camp effective? キャンプは効果的だったか。

全員 Yes (はい) の回答

2) Do you think your English improved during the camp? キャンプ中に英語力が伸びたか。

Yes (はい) 26名, A little (少し) 8名

3) What did you learn from the camp? キャンプで何を学んだか。

主な回答

- Cooperation in group work (グループワークでの協力)
- How to make better presentation (プレゼン手法)
- The importance of using English (英語を使うことの重要性)
- International Communication problems (異文化コミュニケーションにおける問題)
- English is interesting (英語は楽しい)
- Communication ability (コミュニケーション能力)
- International issues (国際事情)
- Think in English (英語での思考)
- New Vocabulary (新しい語彙)
- Importance of keeping the rules (ルールを守ることの重要性)

資料3：授業アンケート自由記述より抜粋（原文のまま）

34名中32名が自由記述に回答（ほぼ肯定的記述）の内一部を抜粋

- I'm very satisfied with this camp! This camp gave us a lot of opportunity to speak in English. It was very very good for us to practice speaking what I want to say in English. Moreover, I could find many good point of my classmates. I want to say thank you to everyone!!
- I learned many things in this summer camp. For example, many English words, many English grammer and I learned cooperation with friends. And I could know many knowledge about environment problems and about Thailand. This summer camp is good memory of this summer for me.
- Thank you very much for everything. I could learn many things through this camp. And I could determine to study harder than before.
- I enjoyed this camp very much. But this camp has some troubles. This camp was too long. So you should decrease day. And, there is no convenience store near the quarter. So, you should locate it near the lodging.
- I think that my listening skill is better than before. But, I can't understand guramer not yet. So I'll study hard it in fall semester. I have a very good time. Thank you for care of us.
- I had many chances of presentation, so I could explain my opinion. This semester was efficiently for me and I enjoyed this camp with class members and teachers.
- I could get a lot of things in this summer amp. Before I came to this camp, I think that I don't want to go, I'd like to stay my hometown during summer vacation. But after this camp, I experienced good programs. Especially, I enjoyed making drama. Our group's instructor is Mr. Williams. And he said, "Don't be shy, more fluently speaking!" and taught gestures(motion), for example be angry, laugh, sad and so on. I understood that it's important for me to speak and also write and listen. I think that I surely improved and skill up myself!! Thank you for your teaching.

資料 4 : 英中英語合着巻後 (1ヶ月後実施日2007年10月9日) アンケート (回答者 30名 (参加者34名中) 単位人数)

No. of questions	Question	Yes		No		3rd year	4th year	Others
		Very much	Somewhat	Very much	Somewhat			
1	Was the camp effective to improve your English? キャンプは英語上達に役立ちましたか。	14	16	0	0			
2	Did you try to speak only in English more than in regular classes? 通常の授業より先英語だけで話そうと努力しましたか。	6	18	0	0			
3	Did it help you to widen your knowledge on the global issues? キャンプはあなたの世界に関する知識を深めまるのに役立ちましたか。	6	21	2	1			
4	Did the camp make you think more about different cultures? このキャンプに参加して、異文化について考えるようになったか。	12	18	0	0			
5	Was your oral presentation skill improved through the camp? このキャンプでオーラルプレゼンテーションの技術が上達しましたか。	12	14	4	0			
6	When do you think is the most effective to hold this kind of English camp? このキャンプはどの時期に実施するのが一番効果的だと思いますか。	13	16	0	0	3rd year 3年	4th year 4年	
7	What did you find good with the camp? (Multiple choices) このキャンプで良かったことは何ですか。(複数選択可)	4	22	1	3			
8	What did you find bad with the camp? (Multiple choices) このキャンプで悪かったことは何ですか。(複数選択可)	3	0	0	0			

Thinking of other cultures 異文化について考える	Thinking of the global issues 世界について考える	Keeping a diary 日記	Goal Setting & reflection 目的設定と日々の振り返り	Night Assignments 夜間学習課題	Playing games 英語でのアクティビティ計画	Planning games 英語でのアクティビティ計画	"Others" その他
15	15	10	14	9	18	15	4
0	0	6	1	7	1	0	7

参考文献

Baker, C. (1993). *Foundations of Bilingual Education and Bilingualism*. Clevedon: Multilingual Matters

三矢真由美 (2000) 「能動的な教室活動は学習意欲を高めるか」『日本語教育』103号, 1-10

中田賀之 (1999) 『言語学習モータベーション-理論と実践-』リーベル出版

Richard, Jack, C. et al. (2007) 『アプローチ&メソッド世界の言語授業・指導法』東京書籍

Skehan, P. (1989) *Individual differences in Second-Language Learning*, London, Edward Arnold

Abstract

This paper reports how students' motivation and attitude were affected by the experience of a short-term quasi-immersion English camp in an EFL circumstance which is held for the freshmen at the department of English Education of Kansai University of International Studies in September, 2007. Only English policy was adopted during the camp. The classes were provided in the student centered style and many group or pair work such as research, presentation and discussion were conducted. The results of the posterior interview and questionnaire were analyzed to examine the effectiveness of the quasi-emersion program on the learners' motivation and attitude to study and use English in an EFL circumstance.